

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年六月度 入賞句一覧 投句数 千八百三十八句



特選

長町 誠司 選

しやぼん玉あらつた車にとんでいく

大垣市

みやけ かいり (小三)

洗車後のボデイは、光沢を取りもどすだけでなく周りの景色もよく映り込みます。そんな車に向かつて、しやぼん玉がフワフワと飛んで行ったのです。まるで、しやぼん玉に意志があるように感じた作者は、その瞬間を俳句にしました。車のボデイに映つたしやぼん玉は、己の姿にうっとりとしたあと、安心して空を目指したのででしょうか。それとも、もつとみんなに見てもらいたいと、ボデイにくつついたのでしょうか。

早朝の初夏をにおわす水たまり

大垣市

伊藤 百花 (小六)

何気ない早朝の水たまりの匂いにへ初夏を感じ取った作者。歳時記によると「夏」は新緑のころの、みずみずしい季節とあります。そのような季節を、水たまりの匂いから感じ取った作者は、とても豊かな感性の持ち主です。俳句は五感を働かせて作ると良いなどと言われますが、この句は嗅覚を働かせて上手く作ることができました。

すいか割り君との絆割つてやる

加茂郡川辺町

長塚 蒼馬 (中二)

西瓜割りを見ていると性格がよくわかります。他人の意見に感わされやすい人・自分の信じた道をひたすら進む人・慎重に信じる人の声だけを頼りに進む人など様々です。また、自信の無さからか、力が弱く当たつても西瓜が割れない人もいます。さて、この句の作者はどうかでしょうか。下五の「割つてやる」からは、西瓜めがけて思い切り棒を振り下ろすんだという強い意志を感じ取ることが出来ます。「絆」を割るのですから尚更です。ね。「君」という人物を、読者がどう解釈するかで、いろいろ想像が広がり、とても面白い句となりました。

秀逸

夏の川もようが絶えず進化する

大垣市

佐竹 倅之介 (小六)

夏の川木の葉のかげのもやいぶね

大垣市

前川 栞 (小六)

いもうとのいえでつくつたこいのぼり

大垣市

高木 詩 (小三)

おにごつこわたしがおにでにげるちよう

大垣市

安田 彩乃 (小三)

かわいいかかわいくないかかたつむり

大垣市

戸田 七菜 (小五)

あじさいの中はホテルだ虫たちの

大垣市

安田 悠人 (小五)

赤いばらおこつたようにさいている

大垣市

生駒 俐空 (小六)

義務教育九年目に見る桜の木

加茂郡川辺町

前島 都和 (中三)

窮屈なキャリーバッグに散る桜

加茂郡川辺町

脇本 優羽 (中三)

じいちゃんのはたけでいちごとりほう題

大垣市

安田 野々花 (小四)

入選

小中学生の部

春の雨ヒタヒタひびく足の音

大垣市

秋吉 莓奏(中二)

春よこいつぶやく君は桜のよう

大垣市

上田 沙来(小六)

こいのぼりことしもぼくのうえおよぐ

大垣市

みやけ かいり(小三)

そらまめはそらのたべものふしぎだな

大垣市

中村 美琴(小三)

こいのぼりこいが登るとりゆうになる

大垣市

もりした さくら(小三)

ねこのこがいけのちかくでねていたよ

大垣市

おぐら ももか(小四)

春休み少しおもいでできそうだ

大垣市

新井 飛翔(小四)

みどりの日なんの日なかわからない

大垣市

林 泰地(小四)

川下りすずしい風がながれてく

大垣市

アルシラ ユミ(小五)

こいと舟ならんで競走夏の川

大垣市

伊藤 陽彩(小五)

かたつむりからの中でのひきこもり

大垣市

岩崎 絢叶(小五)

一年の私をうつす春の雲

大垣市

野原 柑南(小六)

こいのぼりゆらゆらゆれるフラダンス

大垣市

佐々木 佑椰(小三)

蝉の声私の頭うめつくす

加茂郡川辺町

三品 明日香(中二)

町一つのみこむような雨柱

加茂郡川辺町

幸村 直輝(中三)

打球音ミンミンゼミにも負けないぞ

加茂郡川辺町

岩井 貫太(中三)

向日葵はいつも遠くを見つめてる

加茂郡川辺町

則武 怜那(中三)

夏休みおばあちゃんちにいけるんだ

大垣市

大島 こはる(小三)

六ねんせいプールのそうじいそがしい

大垣市

小づか みのり(小三)

水たまり魚にとっては海かもね

大垣市

岩田 さら(小三)

選者吟

向日葵やチームワークの良きクラス

せいじ

